

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第38号

紙と空間

理事長・学長 船山 仲他

図書館と言えば、紙と空間と、そして時代の変遷ということを思ってしまう。

どんどん多くの人がパソコンのディスプレイ上で文字を扱うことに慣れてきている時代であるが、ディスプレイを紙の代わりに使うことが話の全てではない。図書館という空間の意味の変化もあり、人が生活の中でもがいていることもある。

本学の図書館の中にもキャレル (carrel) と呼ばれる個人閲覧室がある。蔵書をその場で調べる忙しい空間にもなり得るが、この世でこれほど落ち着く場所は他にないのではないかと思える雰

囲気もある。もっとも、私は2、3度しか行ったことはない。憩いの場所にもなるが、余りにも寂しい場所でもある。(あるいは、一旦そこに引き籠もると外に出られなくなることを体感じて警戒しているのかもしれない。)しかし、いずれにしても、図書館の機能の中でキャレルはもともと人の知的活動のためにある。そうであれば、他の自習スペースと同様、人が何をしたいかを中心に考えれば活動の内容が変わってもいい。つまり、図書館は本のための空間であるよりも人の活動のための空間であっていいのではないか。

このことは、紙と情報の関係の変化にも関係する。印刷術の登場以来、人間社会はあらゆる情報を書物の形で保存してきた。その紙と情報の結びつきが遊離してきて

いる。つまり、情報の保存に紙は要らなくなってきている。図書館は一義的に書物の宝庫であったが、インターネット上にある書物が増えるに従い、図書館の空間は人間活動のための空間に変わりつつある。そして、考えてみれば、そもそも情報を必要とする主体である人間に焦点を移すことは自然な流れといえるだろう。

しかし、社会全体が紙と空間の関係を捉え直すにはもう少し時間が必要かもしれない。たとえば、すでに始まっている社会環境の変化のひとつに新聞の電子化がある。基本的には媒体が紙から電子空間に変わるということなのであるが、生活実感としてはもっと細かい変化の積み重ねが必要なのではないか。朝、朝刊を広げる時間を確保すること自体がちょっとしたゆとりを感じさせるのであるが、それを省いても日中に仕事の合間にパソコンで読めるとなると、その方が便利である。しかし、その便利さがリズムを狂わせることになるかもしれない。

最近はデジタル化にもいろいろな工夫があって、ちょっと追加料金を払うと紙面をそのまま画像として見ることができる新聞もある。紙面の実際の構成をそのまま見られるとなると、現物の紙の新聞は不要になる。逆にデジタルなら東京版も大阪



版もその他の版も見られる。海外の新聞も物理的に配送してもらわない。貯まった新聞紙を家庭で定期的に片付け、廃品回収を待つ必要もなくなり手間が省ける。パソコンでは紙面を拡大できるので、老眼鏡が無くても読める。とはいえ、紙にもまだ未練がある。びしっと折り目があり、インクの匂いが漂ってくるその日の朝刊を開く触感は手放しがたい。パソコンの電源を入れてサイトに接続するよりもさっと手が届く紙の方が早い。(どちらとも決めがたい読者の感覚を見透かして、紙の購読料と割安デジタル版料金をセットにした料金設定はなかなか憎い。)

紙をやめるメリットはいろんなところで出てくる。大学を退職する人の最大の悩みは図書処分の処分である。

空間拡張の限界に苦しむ図書館は私物は引き取ってくれない・・・、(科研で消耗品として図書を購入するこ

とには落とし穴がある。)研究室から家に持ち帰ることは家人によって拒否される・・・、古書として売却しようとしても買ってくれない・・・、いっそ廃品回収業者に依頼しようとしても大量廃棄物の処理には特別料金を取られる・・・ということになると、紙の本とは何なのかと悩んでしまう。でも、それでも、書物には文字以外の情報も含まれている。紙質や分厚さは本を手にしなないとわからない。デジタルでも書き込みができるようになってきているが、鉛筆の筆圧まで残せない。

こんなことをあれこれ考えると、もう少し時間が欲しいという気分になってくるが、時代は待ってくれない気がする。

(ふなやま ちゅうた)



著書紹介

はじめて学ぶ日本語学：ことばの奥深さを知る 15章

総合文化教授 益岡 隆志

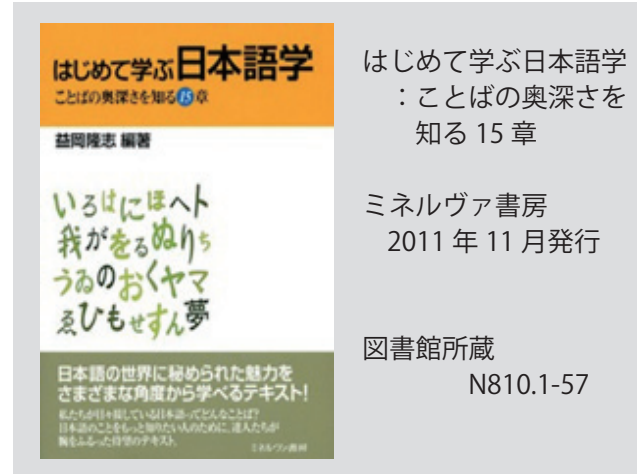
近年は、各専門分野を分かりやすく紹介するガイド本が数多く出版されるようになりました。これは、伝えるべき情報が急速に増加するなか、各専門分野で行われている研究内容がどのようなものであるかを読者に親しみやすい形で提供することが重要になってきたことが背景にあると思います。

本書は『はじめて学ぶ日本語学』というタイトルにあるとおり、日本語研究の世界がいかに広く奥深いものであるかを初学者に紹介することを目的とする入門書です。入門書を出す意義は、第1に、これから日本語研究



の扉を叩こうとする人々のために必要な知識・情報を伝えることであり、第2に、日本語研究以外の分野を専攻する人々に日本語研究の面白さを伝えることです。

第1の意義については特に注釈は要らないと思いますが、第2の意義については多少の補足が必要です。というのは、他の専門分野に比べ、言語（日本語を含む）を対象とする研究分野は、一般の関心が向けられにくい分野であるように思うからです。日本語研究も扱うテーマは多様な領域に及び、それら多様な領域で実に多くの専門家が研究に取り組んでいるのですが、この研究分野に対する一般の関心は十分高いものとは言えないのが現状です。



はじめて学ぶ日本語学
：ことばの奥深さを
知る 15章

ミネルヴァ書房
2011年11月発行

図書館所蔵
N810.1-57

そのような現状を踏まえ、本書は日本語研究の入門書ということに加え、日本語研究の分野にこれまであまり馴染みがなかった人々に日本語研究の面白さを知っていただけるよう工夫しました。各章の執筆はそれぞれの領域の専門家に依頼しましたが、依頼する際、担当するそれぞれの領域の魅力を示していただけようお願いします。その願いが叶い、一般のテキストとは一味違う内容に仕上がったのではないかと考えています。

日本語の研究や言語の研究に関心のある方々はもちろんですが、これまでこの方面にあまり関心を持たなかった方々にも本書を手にとっていただけることを願っています。

(ますおか たかし)

ディスカバリーサービスの紹介

谷本 千栄

2013年4月、図書館のトップページが少し変わったことに気づかれたでしょうか。検索窓ができ、トップページからすぐに資料が検索できるようになりました。検索窓は2つあります。ひとつは図書館の蔵書検索(OPAC)の検索窓、もうひとつは「ディスカバリーサービス」の検索窓です。

「ディスカバリーサービス」は4月から提供を開始した新しいサービスで、資料検索の可能性を大きく広げてくれます。この新しいサービスについて詳しくご紹介します。



《図書館トップページの検索窓》

図書館ではデータベースや電子ブックなど、Web上で利用できるツールを提供しています*1。「データベース」と一括りで書きましたが、文献を検索できるもの、新聞記事を検索できるもの、百科事典を検索できるものなど、いくつも種類があり、使い方もさまざまです。皆さんは、目的に応じてデータベースを使いこなせていますか？

最適なデータベースを選びかねている方はぜひ「ディスカバリーサービス」を使ってみてください。このサービスではWeb上にあるさまざまなリソース（主に学術情報）をまとめて検索することができます。本学で提供しているデータベースや電子ブックは、ほとんどを検索対象としてカバーしています*2。ディスカバリーサービスを利用することで、検索方法がどのように変わるのか確認してみましょう。

論文検索

Academic Search Premier (EBSCOhost) 学内

社会科学や人文科学を中心に、8,500誌以上の雑誌の本文データが利用できます。収録雑誌のうち約4,600誌が雑誌誌です。ご自分のアカウントを作成すると、検索結果の保存や、メールによる追加情報の通知など、便利な機能が利用できます。

CiNii Articles 一部学内

国内で発行された学術論文と、大学等の研究紀要が検索できます。外大では「機関定額制サービス」を契約しているため、本文を表示できるものもあります。「サイトライセンス個人ID」を取得すると有料サービスが利用できるようになります。サイトライセンス個人ID申請にあたっては必ずCiNii利用上の注意をお読みください(登録は無料)。

CNKI(中国期刊全文数据库) 学内 / 同時利用3ユーザー

中国で発行されている中国文学、中国语言文字、法律分野の学術雑誌の本文が利用できます。主要新聞、博士・学位論文、会議録などについても、文献情報を検索できます。

EBSCOhost 学内

EBSCO社が提供するデータベースのプラットフォームです。以下のデータベースが利用でき、全てを横断検索することもできます。検索するデータベース名にチェックを入れて、**絞り**ボタンをクリックしてください。

- Academic Search Premier
- ERIC : Educational Resource Information Center
- Fuente Académica Premier
- LISTA : Library, Information Science & Technology Abstracts
- MLA International Bibliography
- MLA Directory of Periodicals

《論文検索データベースの一部》

◎あるテーマについて日本語・英語の論文を探したい

【ディスカバリーサービスを利用しない場合】

※以下に示すのは検索方法の一例です。

- Step 1 CiNii(サイニイ) Articles〔国内の学術論文のデータベース〕を検索
- Step 2 EBSCO Academic Search Premier〔海外の学術論文のデータベース〕を検索
- Step 3 JSTOR(ジェイストア)〔海外の学術論文のデータベース：主にバックナンバー〕を検索

と、探している分野を収録しているデータベースを個別に検索する必要がありましたが、ディスカバリーサービスを使えば、Step 1～Step 3を1回の検索で済ませることができます。さらに、大学で契約しているデータベース以外の情報もカバーしているので*3、実際に検索すると多くの資料を見つけることができます。時には多すぎるほどの件数がヒットしますが、画面左側に用意されている絞り込み条件の設定により簡単に絞り込むことができます(右上図)。





《検索結果からの絞り込み条件の設定》

このサービスでは、検索以外の便利な機能も提供されています。ご自身のアカウントを作成することで（無料で作成できます）、見つかった論文の保存や、検索条件を保存して、その条件に一致する新しい情報追加のお知らせを受け取ることができます。

ディスカバリーサービスを資料探索の第一歩として、ぜひ活用してください。

*1 オンラインデータベースは図書館ホームページから一覧できます。学内のPCならどこでも利用できるもの、図書館内のみで利用できるものとあるので、利用できる場所にご注意ください。

〈<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/odb/>〉

*2 契約しているデータベースのうち、現時点でディスクバリーサービスの検索対象ではないものは、次の4つです。

- CNKI [中国の学術論文のデータベース]
- LLBA [言語学の文献情報のデータベース]
- Literature Online [英米文学作品のデータベース]
- JapanKnowledge+(ジャパンナレッジプラス) [日本語の百科事典・語学辞書]

これらは個別に検索してください。

*3 契約外のデータベースの情報の場合、本文は利用できないことがあります。

(たにもと ちえ 図書館職員)

ロシア語学学習への誘い

ロシア語えほんコーナーができました

2013年4月より、ロシア語の絵本を集めたコーナーができました。場所は書架番号41になります。

日本人にもよく知られた民話から、ロシアの偉人や都市、自然などを扱っている歴史絵本シリーズまで…集めている分野はさまざま。大変興味深い内容となっています。歴史絵本シリーズについては今後も少しずつ増やしていく予定です。

ロシア語には今のところ、他言語のような語学学習雑誌がありません。語学学習の導入に、ぜひ絵本からはじめてみませんか。

ある程度自信がついた方には、息抜きとしても最適です。どうぞご利用ください。

(須浦)



ロシア語えほんコーナー

本のリサイクル活動

Re ユースコーナーはじめました

2012年秋から、図書館ロビーにて Re ユースコーナーの設置をはじめました。

Re ユースとは、学習・研究支援を目的として、図書館所蔵本等のうち、重複や改版などの理由で廃棄予定の資料を無償で譲渡するという試みです。

現時点で、第1回～第3回（2012年11月、2013年1月、4月）の Re ユースを行っており、合計して2000冊以上の資料がみなさんのお手元へ旅立ちました。

比較的新しいものから、現在では入手困難な洋書まで…資料の種類は様々です。毎回資料の追加を楽しみにしてくださっている方も多く、職員一同嬉しく思っています。

Re ユースは今後も継続する予定です。カウンター、

掲示板等で予告案内を掲示しますので、気に留めてくださればと思います。どうぞお楽しみに。

(須浦)



初実施の様子（2012.11）

図書館日誌 2012年12月～2013年6月

2012年

12.3-1.26 展示「司書のおすすめD」第19回

12.14 杉山ゼミ・ビブリオバトル

2013年

1.9 -2.8 第2回 Re ユース

1.16 だれでもビブリオバトル

1.31 Newsletter No.4 発行

2月のゼミガイダンス 1回実施

3.4-3.8 製本新聞移動

3.26-3.29 蔵書点検

4.1 学術情報リポジトリ正式運用開始

4.5 学部オリエンテーション

大学院オリエンテーション

Newsletter No.5 発行

4.6 英語教育学オリエンテーション

4.8-5.25 展示「司書のおすすめD」第20回

4.17-5.22 初年次教育

クラスごとに実施（水曜日6回、土曜日3回）

4.22-5.24 第3回 Re ユース

4月のゼミガイダンス 14回実施

5.28-5.29 トライやるウィーク（1校2名受入）

5月のゼミガイダンス 9回実施

6.3-7-27 展示「司書のおすすめD」第21回

6.11-6.12 トライやるウィーク（1校2名受入）

6月のゼミガイダンス 6回実施

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第38号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/

2013年6月30日発行 発行責任者：センター長 益岡隆志